

いせさき駅ピアノ誕生 STORY



どこからともなく聴こえてくるメロディは街に彩りを与えてくれる・・・

「街なかで音楽を身近に感じられる場所があったら、風景があったら」という想いから動き出したプロジェクト

令和4年5月17日(火) いせさき明治館から搬出



平成14年(2002年)、黒羽根生自^{くろはねせいじ}氏の意向により、伊勢崎市の歴史的文化的資源として黒羽根内科医院旧館が本市へ寄贈され、同年11月に本町通りから約100m、現在地に曳き家移転されました。その際に、黒羽根家で愛用されていたピアノも一緒に寄贈されましたが、いせさき明治館2階で音を出すことなく、20年間常設展示。

今回「駅ピアノ」への第一歩を踏み出すため、クレーンでの搬出、新たな道を歩みだしました♪

6月2日(木) ピアノプラザ群馬工房にて修繕スタート

経年劣化が著しく、修復は解体から始まりました。ピアノを寝かせての作業と、かなり大規模な改修作業の数々。日本ピアノホールディング(株)の全面協力により無償にて修復&調律となりました。

素晴らしい音色の復活です！

《Ⅰ 解体》鍵盤等の取外し⇒チューニングピンの除去

《Ⅱ 修理・クリーニング》

チューニングピンの埋込⇒響板割れ修理⇒張弦

《Ⅲ 組立》ピアノ起こし⇒鍵盤等取付け⇒金属部等の磨き

《Ⅳ 調整》ハンマーファイリング⇒調律



7月11日(月) 21世紀銘仙「赤いレンガ造り」柄ラッピング

平成28年(2016年)、21世紀銘仙プロジェクト(市民団体)によって、半世紀ぶりに伊勢崎銘仙の併用緋、3柄が復活しました。「時報塔」「ツツジ」「赤いレンガ造り」と伊勢崎にちなんだデザインです。世界的なテキスタイルデザイナー須藤玲子さんが無償提供してくれました。

なかでも「赤いレンガ造り」は、令和元年(2019年)イギリスロンドンにある国立の「ビクトリア&アルバート博物館」に道具類と一緒に永久保存され、令和2年(2020年)2月には同博物館で、ヨーロッパ最大のKIMONO展が開かれ、伊勢崎銘仙の着物として展示されました。

●シュベスター(Schwester シュベスター・ピアノ)

シュベスター・ピアノは1929年に創業し、現存する国内のピアノメーカーとして3番目に古い歴史をもっています。シュベスターとは、ドイツ語で「姉妹」の意味です。その繊細で艶のある音色はヨーロッパの伝統を受け継いでいます。もともと関東で創業しましたが、最近まで静岡県磐田市で「すべて手づくり」によるピアノ製造を続けており、台数を限って生産される数少ない国産のピアノメーカーでした。そこには、伝統に培われたピアノ製造のノウハウを生かし、素材選びから独自の基本設計、精巧な組み立て、調整・調律・整音に至るまで音にかかわる全てを、熟練した職人氣質の技術者によって仕上げられます。シュベスター・ピアノの持つ、質の高い、表現力に卓越した音色には定評があり、熱烈なファンを多く持つことでも知られています。



ラッピング後イメージ